

## イスラエルの対イラン戦争はアメリカ製:トランプは和平交渉を装いながら攻撃を支持した

ベン・ノートン

G/E2025年6月15日

<https://geopoliticeconomy.com/2025/06/14/israel-war-iran-us-trump-support/>

イスラエルは侵略的な戦争行為でイランを攻撃した。アメリカ政府はこの攻撃を支援し、情報を提供し、ネタニヤフ首相とともに計画を練った。ドナルド・トランプは、テヘランとの核交渉を隠れ蓑にし、アメリカとイスラエルの共同作戦を監督した。



イスラエルはイランに対して大規模な攻撃を開始した。

米国はただ傍観しているのではなく、ドナルド・トランプ政権が直接関与している。アメリカ政府は攻撃を監督した。ワシントンはテルアビブに重要な情報を提供し、米国の武器を使ってイランの高官を殺害する手助けをした。

トランプ大統領は、イランとの偽の和平交渉を監督することで、イスラエルに隠れ蓑を提供した。米政府高官がイラン側と会談し、（トランプが一方向的に以前の核合意を破棄した後の）新たな核合意について話し合っている間、米政府とイスラエル政府は密かに作戦を計画していた。

トランプはイスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相に個人的に攻撃開始の許可を与えた。

### **トランプ大統領「日付は常に知っていた」「すべてを知っていた」**

イスラエルがイランを攻撃したわずか数時間後、トランプ大統領はニューヨーク・ポスト紙に対し、事前に攻撃を承認していたと語った。「私はいつも日付を知っていた」とトランプは言った。「私は何でも知っているのだから」。「私は（イランに）60日間の猶予を与えたが、彼らはそれを守らなかった。今日は61日目だ」と、6月13日を指して付け加えた。

トランプはロイターのインタビューでもこのコメントを繰り返した。「我々はすべてを知っていた」と述べ、アメリカ政府がイスラエルと常に連絡を取り合っていたことを明らかにした。

イスラエルの攻撃についてトランプはABCニュースのインタビューで、「素晴らしいものだったと思う」と述べた。「我々は（イランに）チャンスを与えた。イランは大打撃を受けた。あなたが打たれるのと同じくらい酷くだ」とトランプは自慢した。「そして、まだまだ続く。もっとたくさん」とも。

この攻撃のわずか3日前、トランプ政権はイスラエルに300発のヘルファイアミサイルを送ったとアメリカ政府高官が「ミドルイーストアイ」（ロンドに拠点をく中東専門メディア）に認めた。このアメリカのミサイルは、イランの高官を殺すために使われた。

### **偽「和平交渉」は奇襲攻撃の隠れ蓑だった**

ウォール・ストリート・ジャーナル紙は、トランプ政権の皮肉な戦略を要約して、「米外交はイスラエルの奇襲攻撃の隠れ蓑になった」と報じた。トランプ大統領はイランとの和平を望んでいると偽り、米政府高官はテヘランとの交渉に5回参加した。6回目は6月15日にオマーンで開催される予定だった。

これらの協議は、新たなイラン核合意を仲介することを目的としていた。遡ること2018年、アメリカ大統領としての最初の任期中に、トランプは共同包括行動計画（JCPOA）から一方的に離脱した。これは2015年に署名され、国連安全保障理事会決議によって国際法として承認された。しかし、ウォール・ストリート・ジャーナル紙は、トランプ大統領の新協定をめぐる不誠実な交渉が「イスラエルの奇襲攻撃の完璧な隠れ蓑に終わった」と指摘した。

イスラエルのメディアはトランプの二枚舌の策略をこう表現した。「米国は、イランへの攻撃がすぐには起こらないと思わせるために、大規模なキャンペーンに参加した」。このような交渉に公に参加する一方で、アメリカ政府は内々にイスラエルがイランに戦争を仕掛ける準備をするのを助けていた。

ある米政府高官がABCニュースに語ったところによると、テロ攻撃の前、トランプ政権はイスラエルに、イラン政府高官を標的にするために必要な「絶妙な」情報を提供した。イスラエル政府に非常に近いメディア『アクシオス』は次のように報じている。

2人のイスラエル政府関係者がアクシオスに対し、トランプとその側近は公の場でイスラエルの攻撃に反対するふりをしていただけで、私的な場では反対を表明していなかったと主張した。「われわれには米国の明確なゴーサインがあった」と1人は主張した。その目的は、攻撃が差し迫っていないことをイランに納得させることと、イスラエルの標的リストに載っているイラン人が新しい場所に移動しないようにすることだったという。ネタニヤフ首相の側近は、イスラエルの記者団に、トランプ大統領が[6月9日]の電話会談でイスラエルの攻撃にブレーキをかけようとしたとさえ説明したが、実際にはその電話会談は攻撃に先立つ調整に対処したと、イスラエル政府関係者は現在語っている。

## トランプは米国が支援したイラン攻撃を誇る

ドナルド・トランプはイラン攻撃における自分の役割を誇りに思っている。

6月13日、イスラエルがテヘランをアメリカのミサイルで攻撃した数時間後、トランプは自身のウェブサイト「トゥルース・ソーシャル」で、「アメリカは世界のどこでも、断トツで最高で最も致命的な軍備を作り、イスラエルはそれをたくさん持っている。これからもっと持つだろうし、どう使うかもしっている」とのべた。また

トランプは、「イランの高官たちは勇敢に話したが、何が起ころうとしているのか知らなかった。彼らはみな死んでしまった。もっと悪くなるだけだ」とも書き込んでいる。

アメリカ大統領は、自身がスポンサーとなっているイスラエルの攻撃を「虐殺」の一形態と呼び、「次に予定されている攻撃は（さらに）残忍なものになるだろう」と脅した。

その1時間半後、トランプは「トゥルース・ソーシャル」に別の投稿をした。

「2カ月前、私はイランに60日間の最後通告をした。彼らはそれを行うべきだった！ 今日で61日目だ。私は彼らに何をすべきかを伝えたが、彼らはそこに到達することができなかった」。

トランプのメッセージは明らかだ。もしイランが米国の要求に屈して主権を放棄しなければ、アメリカはイスラエルを使ってイランを爆撃し続けるだろうということだ。

## マルコ・ルビオは嘘をついた；アメリカは深く関与していた

これらの背景はすべて、米國務長官兼国家安全保障顧問のマルコ・ルビオが「イスラエルはイランに対して一方的な行動をとった。我々はイランに対する攻撃には関与していない」と主張したとき、あからさまに嘘をついていたことを示している。

これは純前たる虚偽だ。 トランプ政権は作戦の監督に關与していた。 アメリカ政府は、イラン攻撃に使われたミサイル、飛行機、その他の軍事技術はもちろん、イスラエルに情報と後方支援を提供した。

ドナルド・トランプは自らネタニヤフ首相とイスラエル政権に許可を与えた。

さらに、イスラエルの一方的な攻撃に対してテヘランが自衛のために反撃したとき、米軍はテルアビブに向かっていたイランのミサイルのいくつかを迎撃し、撃ち落とすことに直接關与した。

はっきりしているのは、起こったことはすべてアメリカとイスラエルの共同作戦だったということだ。 イスラエルは単独で行動したわけではないし、アメリカを戦争に「引きずり込んだ」わけでもない。 トランプ政権はこの戦争行為を承認し、監督したのだ。

## **イスラエル：米帝の不沈空母**

イスラエルは、世界で最も戦略的な地域のひとつにあるアメリカ帝国の外延である。テルアビブは、まずワシントンの承認を得ることなしに、重要な軍事的・外交的決定を下すことはない。

イスラエル軍のトップは、アメリカの支援がなければ、イスラエル国防軍はガザに戦争を仕掛けることができないと認めている（イラン、レバノン、シリアは言うまでもない）。

これがジョー・バイデン元米大統領が、「イスラエルが存在しなければ、アメリカはこの地域の利益を守るためにイスラエルを発明しなければならない」と繰り返し宣言した理由ある。

アレクサンダー・ヘイグ元米国務長官が説明したように、「イスラエルは、撃沈されることのない世界最大のアメリカ空母であり、アメリカ兵を一人も乗せずにアメリカの国家安全保障にとって重要な地域に位置している」。

ネタニヤフ首相も同じことを言った。彼はイスラエルをアメリカ帝国の「強大な空母」だと誇らしげに言った。

イスラエルを武装させ、守っているのはアメリカだ。イスラエルがパレスチナ人を殺害し、イラン、レバノン、シリアを攻撃するために使用する武器、弾薬、飛行機、ミサイルを含め、ワシントンは毎年何十億ドルもの軍事援助を行っている。

米国はまた、国際的な場でもイスラエルを保護し、イスラエルが常に国際法に違反し、戦争犯罪や人道に対する罪を犯していても、何らの影響も受けないようにしている。

トランプ政権は6月4日、ガザでの恒久的停戦を求めた国連安全保障理事会の決議案に拒否権を発動した。この和平措置に反対したのは、安保理でアメリカだけだった。2023年と2024年、バイデン政権はガザの和平を要求する4つの国連安保理決議に拒否権を行使している。

(了)